

番 号	県 6	区 分	県指定文化財
種 別	史跡	所 有 者	南木曾町
名 称	妻籠城址 (つまごじょうあと)		
指定年月日	平成16年11月22日		
所 在 地	南木曾町吾妻 (城山) <sup>しろやま</sup>		

#### 概 要

妻籠城は、いつ誰によって築かれたか明らかではない。伝承では、木曾家村が室町時代に築いたと言われているが、戦国時代に木曾氏の南のおさえとして、武田信玄や木曾義昌によって整備されたことは確かである。

妻籠城は、天正12年(1584年)の小牧・長久手の戦いの折、ここも戦場となり、木曾義昌の家臣山村甚兵衛良勝が、家康配下の菅沼・諏訪・保科の率いる伊那・諏訪の軍勢を退けている。また慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いの時も、妻籠城に軍勢が入っている。

妻籠城は典型的な山城で、木曾川と蘭川の合流する断崖上に位置し、いくつかの平地、空堀(からぼり)、帯曲輪(おびぐるわ)、さらには南木曾岳へのびる妻の神(さいのかみ)土塁をも備えており、かつ江戸時代の古絵図によると、周囲に古城(ふるじろ)などの地名を残していることから、よほど規模の大きな構えであったことが知れる。

現在でも、いわゆる主郭と言われている所は整地され公園となっているが、帯曲輪や空堀などはよく原型をとどめている。(町指定昭和41年12月14日)

